

看護福祉学研究科設置の経緯と教育理念

最近の高齢社会の到来、少子化、核家族化などの社会情勢の変化に対応して、これまでばらばらに行われてきた医療と福祉を連携させて支える体制を構築することが必要になってきました。そのためには看護にあたる人も社会福祉の実態や問題点を理解する必要があり、社会福祉を業とする人も医学や看護の知識を十分にもつことが重要です。そこで、福井県立大学では看護と福祉の学生が同時に学ぶ機会をつくり、相互に協力できる人材を育てることを目的として、看護学科と社会福祉学科を一つの学部のなかにおく看護福祉学部を新設しました。平成 15 年 3 月には初めての卒業生が、開設時の理念を身につけて社会に巣立ち、初期の目的には一応の成果が得られたと考えております。

しかし看護学も社会福祉学も、実務に関しては多年にわたる蓄積があるものの、研究面ではまだまだ発展途上にあるのが現状と言えます。学問、研究面での充実が実務にも反映して、更にその分野の発展につながるという諸外国の例もあり、両分野のさらなる発展をめざして福井県立大学大学院看護福祉学研究科を平成 15 年 4 月に開設いたしました。

看護福祉学研究科は看護福祉学部を基礎として、看護学専攻、社会福祉学専攻の二専攻を一つの研究科のなかにおくという学部と同様の特色をもっております。そして、地域における保健、医療、福祉の連携に役立つような学際的研究を推進していきたいと考えています。

看護学専攻では平成 30 年度からヘルスケアシステムの変革に伴い組織を管理運営できる能力を養成するために「看護マネジメント学」領域を新設しました。併せて地域看護学領域を「在宅看護学」と「公衆衛生看護学」に分け、看護専門領域を 6 領域から 8 領域に再編し拡充しました。

また、社会福祉学専攻では平成 17 年 3 月修了の一期生のなかから、すでに著書を世に問う人も誕生いたしました。

看護と社会福祉という両分野の連携の基礎には、まず、個々の分野の研究を充実させることが肝要です。

【理念・目的】

看護福祉学研究科では、看護学と社会福祉学の両分野がそれぞれに高い専門教育・研究を目指しながら連携し、地域における保健・医療・福祉活動に貢献できる学際的研究を推進します。そして、高い教養と見識に裏付けられた専門知識・技術・研究能力を身につけ、高度な実践活動と豊かな創造力を基盤にして後進の教育・指導ができる看護・社会福祉分野のリーダーとなる人材を育成します。

（１）看護学専攻

【教育目標】

- ① 環境の変化に伴い多様化するヘルスケアニーズに応じて発展的・創造的に看護を実践する能力を養成する。
- ② 人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づく質の高い看護を提供する能力を養成する。
- ③ 看護学発展の長期的展望に立ち、看護実践上の問題や課題の解決に向けた研究能力を養成する。
- ④ 保健・医療・福祉分野の専門職や他職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を養成する。
- ⑤ ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を養成する。

（２）社会福祉学専攻

【教育目標】

- ① 個人と社会のウェルビーイングを高めるための社会福祉実践・社会福祉政策の価値を探究する能力を養成する。
- ② 自由・平等・友愛の民主主義思想と共生の理念に基づいた研究能力を養成する。
- ③ 複雑・複合化した生活課題の解決のための多角的視点での社会福祉学研究を行う能力を養成する。
- ④ 個々人の生活の質の向上と社会の健全な発展に寄与する研究能力を養成する。
- ⑤ 多様で複雑化した個別ニーズに対応できる実践能力を養成する。
- ⑥ 地域における共生社会の発展に資する実践能力を養成する。